

クラス番号	913	担当教員名	杉浦 顕
テーマ	<p>当事者組織（患者・家族の会）を理解する。 援助関係の構築と他職種・他機関との連携（ネットワーク）の構築を学ぶ 傷病による生活のしづらさとそこに対応する社会資源の活用について学ぶ</p>		
ゼミナール概要			
<p>目的、内容、方法等：</p> <p>(1) 目的 傷病がもたらす生活のしづらさは様々な形を表出させる。患者・家族が傷病を抱えながら生活を維持していくことの大変さを共感し、その生活のしづらさの改善や解決に医療ソーシャルワーカーはいかに関わっていくのか、関われるのかを学ぶ。</p> <p>(2) 内容 1. 傷病が及ぼす生活のしづらさの理解 2. 当事者グループ(患者会・家族会等)の実情とその活動の実際 3. 援助に伴う社会資源の概要の把握と活用の方法 4. 医療ソーシャルワーカーにとっての連携と協働のしかた（医療機関内および地域関係機関）。 5. 医療政策と現代医療の機能と分化の把握 6. 現代の医療事情と療養生活への影響 7. 患者・家族の療養生活と権利擁護について などを一緒に考えていきます。</p> <p>(3) 方法 1. グループでの課題の抽出、グループ討議と発表 2. 患者会・家族会の活動の実情把握（活動状況の見学・インタビューの実施、特別講義の実施） 3. 医療機関、連携機関の見学・インタビュー、特別講義の実施</p> <p>(4) 授業計画：基本的には医療福祉コースの共通要素によって進めます。</p> <p>前期 1. 難病をはじめとする傷病がもたらす生活のしづらさを把握する。 2. 当事者グループ(患者会・家族会等)の活動状況、機能を調査する。 3. 患者・家族との関係の理解を深める。</p> <p>後期 1. 医療ソーシャルワークの現場の働きを把握（施設見学、インタビュー） 2. 連携方法と機関のネットワークの状況を把握する。 3. 社会資源の利用の時期と方法を学ぶ</p>			
担当教員からのメッセージ			
<p>私は日本福祉大学に赴任する前は主に急性期医療を提供する病院で39年間医療ソーシャルワーカーとして働いてきました。また、急性期医療機関に居宅介護支援事業所を併設し、在宅療養生活が安心して行えるようにケアマネジメントにも深く関わってきました。</p> <p>また、当事者(患者・家族)が生活のしづらさに対して、自らが立ち向かい、解決していく過程にも参加させていただきました。患者・家族の生活課題の解決や改善に向けて院内外の医療スタッフ、地域関係機関の人々と共にエネルギーを割いてきました。</p> <p>そこで学生の皆さんと共にこの医療ソーシャルワーカー道をみつめていけたら幸いです。</p>			